



社会教育

アドバイザー通信

〈第3号〉

平成28年9月27日
発行：秋田県教育委員会
編集：中央教育事務所

平成28年度学校・家庭・地域連携総合推進事業として、中央教育事務所が主管する研修会は年間3回あります。今回は、6月に行った「中央地区コーディネーター等研修会」と7月に行った「第1回指導者等スキルアップ研修会」の様子を紹介します。

〈中央地区コーディネーター等研修会〉

6月3日(金)

会場：秋田県生涯学習センター

☆コーディネーター等研修会は、地域コーディネーター等関係者が、業務に関わる課題等について改善策を協議し、事業の充実を図る目的で開催しました。42名が参加し、グループごとに、自分が関わっている事業の実施状況や地域の現状について情報交換をしました。研修会のテーマ「子どもの元気を育む学校・家庭・地域連携の力」を受け、現状を出し合い、協議の経過を模造紙にまとめました。まとめた模造紙をもとに他のグループと交流も図りました。



①事業の現状を情報交換



②課題と改善策を協議



③他のグループとの交流



今回の研修会では、子どもたちが笑顔になるために、地域として取り組むべき具体的な事例を持ち帰ってほしいという期待を込めて行いました。学校・家庭・地域連携による教育の充実に向け、これからの地域を担う子どもたちの育ちを支える体制づくりが協議の中心であったように思いました。どの参加者からも、積極的に学ぼうという姿勢と「子どもたちのためにできることをやろう」という強い思いを感じました。

〈第1回中央地区指導者等スキルアップ研修会〉

7月5日(火)

会場：秋田県生涯学習センター

☆学校・家庭・地域連携総合推進事業及び放課後児童健全育成事業の指導者等を対象とした実技研修とグループ協議を行いました。70名が参加し、フェライト子ども科学館職員の指導のもと、「サソリの標本」「くるくるフェライトマン」の2つの科学工作を学びました。具体的な工作の過程に加え、子どもの興味を引くための教材の提示の仕方についても学びました。グループ協議では、日頃の悩みや困難に感じていることを出し合い、共有したことで仲間意識が芽生え、互いにアドバイスし合うなど、良い交流の場になりました。



フェライト子ども科学館職員



①科学工作に挑戦



②グループで交流

夏休みを前に、子どもたちのために学び、知識と技術を得ようと、どの参加者もやる気満々でした。日頃から、子どもたちの個性や個人差を踏まえ、一人一人の気持ちを受けとめて対応に当たっているからだと思いました。子どもたちと関わっていると困難なことも多いかと思いますが、子どもたちと一緒に感動したり考えたりしながら子どもたちの成長に携わることは、きっと大きな喜びになっているのだと感じました。これからも参加者の真剣な学びの姿勢に応えられる研修の場や機会を充実させていきたいと思えます。

家庭教育支援チーム

核家族化に伴い、祖父母や地域の方から子育てについて聞く機会が減り、孤立しがちな家庭があるなど、家庭教育は様々な課題を抱えています。そこで秋田県では、今年度、家庭教育支援チームの立ち上げに力を入れています。すでに平成19年度から家庭教育支援チームをつくって活動している男鹿市の取組を紹介します。

お茶っこサロンの様子から

○男鹿市立船川保育園で行われた「お茶っこサロン」取材しました。



男鹿市家庭教育支援チームでは、保育園、幼稚園、小・中学校や各関係機関での保護者学習会等の機会に、お茶やコーヒーを飲みながら、保護者が子育ての悩みなどを気軽に話し合えるコーナー「お茶っこサロン」を開いています。昨年度は年間10回、保育園や小学校、PTA研修会などで行いました。



「お茶っこサロン」の準備をする家庭教育支援チーム



保育参観の合間に「お茶っこサロン」で談笑する保護者の皆さん

船川保育園大淵園長に、「お茶っこサロン」についてインタビューしました。

☆保護者が気軽に「お茶っこサロン」を利用しています。家庭教育支援チームには話しやすい雰囲気がありますね。保護者もチームの活動を理解し、自然に参加するようになりました。保護者の悩みを聞いてもらえるなど、大変助かっています。

男鹿市家庭教育支援チームのリーダー 秋山さんにインタビューしました。

☆保育園や学校を訪問して、子育て中の保護者に少しでも声掛けができればいいと思い、「お茶っこサロン」を開いています。「お茶っこサロン」は、保護者同士が交流するきっかけにもなっています。市立図書館と連携して本の展示や貸し出しを行い、子育ての情報を提供しています。家庭教育支援チームのパンフレットを配り、活動を広めています。
☆家庭教育支援チームは現在12名で活動しています。「活動日に都合の付く人が活動する」「無理はしない」という考えで、チーム員が負担を感じないように配慮しています。

男鹿市家庭教育支援チームの担当 教育委員会 伊藤さんにインタビューしました。

☆家庭教育支援チームでは、「お茶っこサロン」の他に、家庭教育講座などの自主事業も行っています。また、今年度は、男鹿の自然を体験する「親子チャレンジクラブ」のサポートもしています。どの事業でも、チーム員が積極的に活動しています。今後は、未就園児をもち、なかなか家庭から出られない方々へも、支援チームの活動をもっと周知していきたいと思います。

男鹿市家庭教育支援チーム取材して、チーム員が保護者にさりげなく声を掛けたり、ほどよく距離を取りながら関わったりする姿に感心しました。チーム員からは、「まず保護者の話を聞く」「大丈夫という声を掛ける」などの言葉が聞かれ、支援チームが保育園や学校に温かく受け入れられている理由がよく分かりました。戸惑いや不安があるときに、おしゃべりできる場所が身近にあることは、子育て中の保護者にとってとても心強いことです。

リレーコラム 「家族を笑顔にする10のヒント～あきたのそこちから!」



育てよう! 豊かなつながりを大切に

子どもは地域とのつながりの中で育てましょう。学校行事やPTA活動、地域の行事などに参加することで、子どもの外での様子を知ることができます。また、親自身も先生や他の保護者、地域の人たちと積極的につながり、子育てに生かしましょう。親の人間関係の広がり、子どもにとっても、地域の大人との豊かな関わりを広げます。

「子どもの意外な一面も見えてきます!」

いろいろな活動に参加することで、家庭の外での子どもの様子を知ることができます。保護者自身も、交流を深め、よい人間関係を築いて、子育てに活かしましょう。

